コラム「ブラジルの素顔」

2022年2月

加藤　巌

「5度目のブラジル生活　／　嗚呼ブラジル、学びは続く」

ご無沙汰しています！！

前回の執筆から時間が空いてしまいましたが、生涯 5 度目のブラジルでの生活がはじまりました。

初めてブラジルの土を踏んだのは中学生の時でした。2 回目は会社から派遣された業務研修生としてであり、その後、3 回はいずれも企業駐在員としてです。社会人となって金融一筋で、途中数年間にわたり財務省の外郭団体の職員としてアルゼンチン・ウルグアイを中心に研究をする機会にも恵まれましたが、よもや自分でもこれほど中南米に寄った人生になるとは想像もしていませんでした。

しかしながら、そんな経験もあることから、「ブラジルのことは何でも知っていますよね？〇〇について教えてください」という相談を現在でも多く頂きます。そんな私でも、まだまだ「学び」は続いていますので、2021 年 9 月末から再開されたブラジル生活で感じていること、体験していること、或いはビジネスチャンスだ！と感じたこと等をツラツラと書いてみますので、お付き合いください。

【生活習慣、商習慣　／　最後の最後まで油断禁物だね】

日本から当地へ運搬して貰っていた引越荷物にはある程度の予備を入れてあったのですが、余裕があるときに使い捨てのコンタクトレンズを仕入れておくべしと思い立ち、近くのショッピングセンターへ行きました。するとなんとユーザーには都合よく処方箋が不要で、しかもユーザーの不安が全くない、今まで使用していたものと同じ商品がサンパウロでも輸入販売されており、購入できるとのことだったので、多少割高ではありましたが即決で大量購入をしました。

入荷したら連絡するよ！！と威勢の良い、しかもブラジル人らしく最初からかなり親しい対応をしてくれるお兄さがアテンドしてくれました。更にはその店に常駐しているコンタクトレンズ・アドバイザーなる職業の白衣を着ている眼科医のような社員とも親しくなって≒味方につけ、これで一安心ということでその日は帰りました。

ところがです。

なかなか連絡がないのです。商品到着の連絡がないことに痺れを切らして店に電話をしたら、例のお兄さんは休暇に入っていました・・・・。が一ん。休暇明けまで辛抱強く待ち、出勤した日に再度連絡をして問い詰めると、運送業者がちゃんと運んでくれない等を言い続け、なんたることか、年末年始が重なったというタイミングの悪さはあったものの、商品を受け取れたのは約 2 か月後でした。本来であれば既に支払った金額を 2 ヵ月間も運用出来たはずですので、2 ヵ月分の金利請求をしたいところでしたが、止めておきました。取り敢えずクレームセンターを聞き出して連絡をするものの呼び出し音のみ続き、誰も電話に応答せず、メールのみ発信するという片手落ちに終わりました。勿論ながら返信はありませんでした・・・。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものです。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

そして苦労をして手にしたコンタクトレンズを実際に手にした時には、船便もしっかりと到着していて、在庫が大量にダブついているのは言うまでもありません。

ここからの学びは「最後の最後まで油断禁物」ということです。嗚呼ブラジルです。

【デジタル化の進んでいるブラジル － その 1 ／ 金融システムーPIX ピックス】

ブラジル中央銀行が 2020/11 に導入した即時決済システムである PIX（ピックス）は、既に国民の 1 億人以上が使用しています。当地に来る前、日本にまだ住んでいる時から注目していました。着任しても本音を言うと、何となく信用が出来ないことから、自身の生活に導入することに躊躇していましたが、これは凄いです。もと金融業界に身を置いていた人間からみても、極めてよくできたシステムだと思います。

もっとも評価できるポイントは即時決済である上に、個人間の資金移動は手数料が無料であることと、ブラジルにまだ多く存在する銀行口座を所有出来ない国民でも、例えば電子商取引の口座に紐づけできることから、このシステムが使用可能になるということです。また口座番号等の情報提示は不要なのです。この簡便なシステム故に一般庶民には高額な手数料が見えにくいクレジットカード決済や銀行口座が必須であるデビット決済に迫る急激な利用件数増加に繋がっています。つまりこの PIX により「お金が動いている」ということになります。この新しい分野には、まだまだ大きなビジネスチャンスが潜んでいると思います。

流石、フィンテック全盛の国。嗚呼、ブラジルです。

【デジタル化の進んでいるブラジル － その 2 ／ デジタル運転免許証】

前回の駐在時から大きく変わっていたのは先述の金融システム・PIX だけではありませんでした。保有していたブラジルの運転免許証の期限が切れそうだったので、秘書にお願いをして更新手続きを進めていました。すると「アプリケーションで確認してください」と言われたのです。

ムムム。どういうこっちゃ？従来の紙製免許証は後刻郵送されるものの、デジタル免許証が出来たのでスマホのアプリケーションで確認してください、と言うことでした。

恐らくまだ試験的施行時期なので物理的免許証も併せて発行されているものと思いますが、いずれはデジタル版のみになるのでしょう。常に持ち歩くスマートフォンに運転免許証が「ある」とは驚きました。先刻の PIX と併せると、極端に現金を持ち歩く必要性が減っている今日のブラジルでは運転免許証も、同様です。

かなり便利です。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものです。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

流石、IT 先進国。嗚呼、ブラジルです。

【為替 / 投資タイミングです】

為替動向、見込み等についても非常に多くのご質問を受けていますが、まず大前提で申し上げますと、昔から私は「レアル高」論者です。その理由は説明をすると長くなるので長文説明は割愛しますが、一言で申し上げると「ブラジルは食料、人口、文化、社会等の国家として基本的に生き残るために必要な有形無形の物資が揃っている、しかも大量に存在する数少ない余裕がある国」だからということです。

さて現状は皆さんの予測通りにレアルは切り下がっています。約 2.5 年前の駐在時は主に M&A の仕事をしていたのですが、その当時のレアル円の為替と比較すると現在は圧倒的に割安感があります。これは市内のレストランでの会食時には特に痛感します。

ブラジル中央銀行のデータによると、2018 年1月は 1 レアルが略 35 円でありましたが、2022 年 1 月現在の為替は 1 レアルが略 20 円ですので、大きな違いです。日本からの投資タイミングは好機であり、反対に当地で輸入販売をすると大変なことになります。

為替の影響が大きい国。嗚呼、ブラジルです。

【コロナ禍のプラスの側面】

前回駐在していた約 2.5 年前のブラジルと大きく変わったのは、世界に蔓延している疾病 covid-19 の存在とそこの状況下で逞しくも発生、発達したビジネスでした。

Uber Eats（ウーバーイーツ）や ifood（アイフード）、Rappi（ロッピ）といったレストランや食材、薬等のデリバリー業務が相当なスピードで浸透しています。（その後 UberEats は早くもこの業界からの撤退を発表しました）

世界的にみてもブラジルはスマートフォンの浸透率が高く、その浸透スピードの速さには素地があったと言えます。従って使用者が多くかつ優秀なシステムエンジニアも多く存在するので、アプリケーションの開発速度も相当なものです。加えてサンパウロの中心地での 5Gについても日本人が想像しているような、断線するようなものではなく、しっかりとしていて日本との web 面談も途切れません。

でも街全体の停電はまだまだ頻繁に発生するので、面談は途切れます・・・・嗚呼ブラジルです。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものです。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

加藤　巌（かとう いわお）

1987年上智大学外国語学部卒業。同年住友銀行（現三井住友銀行）入行。
89-90年ブラジル業務研修生、国際審査部、国際金融情報センター出向、ブラジル住友銀行（現ブラジル三井住友銀行）にて企画、法務、システム等を所管、数年後にブラジル三井住友銀行にてM&Aソーシング/アドバイザリー業務に従事。長きにわたり中南米ビジネスへのアドバイザリー業務に従事。その後銀行を退職し2021年9月末より食品業界で5度目のブラジル生活中。同時にブラジルの金融、文化、社会、政治等について、いろいろな分野での南米の専門家が情報交換、提言をする団体、日本ブラジル・クラブ CdNB（Clube do Nipo-Brasileiro）の共同主宰。

＜主な執筆物＞
「中南米における自国通貨のドル化の背景とその実効性」（JCIF／大蔵省委託調査）
「変動する世界の金融・資本市場（アルゼンチン）」（金融財政事情研究会）
「日本企業がブラジルと上手に付き合うために必要なこと」（日本ブラジル中央協会）
「新ブラジル事典／第4章：金融業」（ブラジル日本商工会議所編）

＜主なセミナー等＞
「特集ブラジル経済と不動産市場の行方」（AREAS不動産証券化ジャーナル/2016年31号）対談。
日本機械輸出組合主催「ブラジル進出支援セミナー」、播磨国際協議会主催「ブラジル経済情勢」
上田市3商工団体共催「海外展開セミナー」

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。本レポート中の見解は執筆者のものです。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。